

TDK「グローバル知財ガバナンス 挑戦と課題」講演内容予測

Claude Opus 4

TDK の現状と背景

グローバル企業としての特殊性

TDK では約 90%(約 9 万人)が海外国籍の従業員で、日本人は約 10%(約 9,000 人)に過ぎません。約 80%の従業員が M&A を通じて TDK グループに加わったという、極めて多国籍色の強い企業構造を持っています。海外売上高比率 91.9%、世界 30 以上の国・地域に 250 以上の拠点を展開する真のグローバル企業です。

知財戦略の基本方針

TDK は知的財産権を「企業社会における価値創出の源泉」と位置づけ、主要グループ企業の各知財部門と連携して事業戦略に沿った知財戦略を策定・実行しています。

講演で語られる主要な挑戦と課題

1. 多様性統合の課題

- ・ 文化的多様性の管理: 90%が海外人材という環境での知財ガバナンス統一
- ・ 法制度の違い: 各国の知財法制度・規制への対応
- ・ 言語・コミュニケーションの壁: グローバルチームでの知財方針共有

2. 組織ガバナンスの構築

TDK が採用する「自律分散型組織」における知財ガバナンスの実現方法:

- ・ 中央集権的でない知財管理体制
- ・ 各地域の知財組織への権限委譲とエンパワーメント

- ・ 透明性とアカウンタビリティの確保

3. 事業戦略との戦略的アライメント

小柴氏が重視する「事業戦略と R&D 戦略とに基づいた知財戦略の重要性」を基に：

- ・ 5 つのコアテクノロジー（材料技術、プロセス技術、評価・シミュレーション技術、製品設計技術、生産技術）と知財戦略の連動
- ・ IP ランドスケープの取り組みによる戦略的意思決定支援

TDK の解決アプローチ

1. グローバル知財組織の役割定義

- ・ 本社知財組織: 戦略策定、ガバナンス、標準化
- ・ 地域知財組織: 現地法対応、文化適応、実行支援
- ・ 事業部知財組織: 事業特化、技術連携

2. 人材育成とエンパワーメント

TDK が実施する TCDP（地域別キャリア開発プログラム）の知財版展開：

- ・ グローバル知財人材の発掘・育成
- ・ 文化横断的な知財専門家の養成
- ・ 知財と事業戦略を繋ぐ人材の育成

3. デジタル知財ガバナンス

- ・ グローバル知財管理システムの統一
- ・ リアルタイム知財情報共有プラットフォーム
- ・ AI・データアナリティクスの活用

日本の知財組織への示唆

1. 従来型から戦略型への転換

IP ランドスケープの定義「経営戦略又は事業戦略の立案に際し、経営・事業情報に知財情報を取り込んだ分析を実施し、その結果を経営者・事業責任者と共有すること」の実践

2. グローバル標準への対応

LexisNexis PatentSight+ Summit 2025 のテーマ「Bringing IP to the Boardroom」が示すように、知財を経営レベルでの戦略的資産として活用する必要性

3. 多様性を活かす組織設計

TDK の成功事例を基にした、日本企業のグローバル知財組織モデルの提案

結論: グローバル知財ガバナンスの成功要因

1. 戦略的アライメント: 事業戦略・R&D 戦略・知財戦略の三位一体
2. 文化的適応力: 多様性を活かしつつ統一されたガバナンス
3. 人材エンパワーメント: 自律分散型組織での責任と権限の明確化
4. デジタル基盤: グローバル情報共有とリアルタイム意思決定支援

小柴氏は、TDK の実践例を通じて「真のグローバル知財ガバナンス」の実現方法と、日本企業が直面する課題解決の具体的アプローチを示すと予測されます。